

平成22年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立深伊沢小学校								
評価項目	本年度の行動目標	指標	評価	達成状況	成果	関係者評価	課題(今後の改善点)	
学力保障	授業改革 授業研究	全学年におけるCRT検査と第6学年の全国学力調査結果から、弱み強みを明確にし、それをもとに個に応じた指導を展開する。	CRT100以上、全国学力調査全国平均以上	B	5年生のCRTの結果から、算数科においては数量関係に、国語科においては漢字力に少し弱みが見られた。CRTは他学年でも算数科だけ実施したが同様の結果であった。	授業公開については、事前に指導案検討等を行い、教材研究を深めることができた。全体公開を行わない学年であっても、低学年部・高学年部で意見交換をし、授業を参観し合っ、お互いの授業力向上に努めた。授業改善に大いに役立った。	書く力(特に漢字)に弱みがあるのは、字を書く習慣が身につけていないからだと考えられる。近頃は情報機器も普及して、生活に必要な情報も簡単に手にはいるようになった。情報を書き写して残しておく必要がなくなったことも、その一因になっているように思われる。学校では反復練習をさせるなど、書くことを大切にしたい取り組みを継続してもらいたい。また、家庭学習の課題として、漢字の練習を多く課し、家庭と連携して取り組んでいく必要がある。	算数の授業でのTTは、子どもの満足度も高く、全体的にもかなり成果が上がったと言える。しかし、個々の児童に目を向けてみると、学習意欲があまり感じられない子、基礎基本の定着に課題のある子もみられる。今後は、さらに指導法の改善や、日常的な指導力向上のための研修が必要である。
		全教員が年間1回以上の授業研究を行い、指導方法の工夫・改善を行う。そのうち2本は全体公開とし、公開授業を行う。	全員の授業研究2本の公開授業	A	全ての教員が1回以上授業研究を行った。また、1年と6年の授業を市内に公開し、指導主事を招聘した。			
	少人数指導	算数科で少人数授業、TT授業等を行い、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	児童アンケート「学校の学習はよく分かっている」4段階評価3以上が90%	A	アンケートの結果、92%の児童が評価3以上であった。達成できた。	1・2・3・6年で主に算数の授業でTTの授業体制をとり、それによって学習内容の定着が深まった。児童・保護者の両者からよい評価があった。		
			保護者アンケート「お子さんは学校の学習がよく分かっていますか」4段階評価3以上が90%	A	保護者アンケートで90%であった。達成できた。			
	学習ボランティア活用	ステップ学習や授業等で学習ボランティアの活用を図る。	のべ20人以上活用	A	31人の登録があり、算数ステップ学習や音楽科での学習の時間の補助等、いろいろと協力していただいた。	つまづいている児童への個別支援を目的とした算数科ステップ学習では、昨年度よりも1.5倍の方々に協力していただき、取組として定着してきた。	ボランティアの数が増えたことは望ましいことである。いろんな面で先生方にも余裕ができるのではないだろうか。楽しい学校生活を送るには、すべての子どもが基礎基本の学力を身につけることが重要なことである。そのためにも、ボランティアの協力も含めて、継続して取り組んでいくことが大切である。	ステップ学習への学習ボランティア活用は定着してきたが、それ以外へあまり拡大されていない。
	補充学習	朝の学習さわやかタイム(計算・漢字・読書)を充実させる。ステップ学習(計算)を実施する。	児童アンケート「計算に自信はつきましたか」4段階評価3以上が90%	A	91%の児童がアンケートで「計算に自信が持てた」と答えており、達成できた。	百マス計算による計算力強化週間を設けたことで、子どもたちの集中力が高まった。また、長期休業中に3日間補充学習の日を設けた。休業中であるにもかかわらず、平均して6割の出席率があり、そこでは意欲的に取り組む姿が見られた。		長期休業中の補充学習については、あまりにも多くの児童が参加するので、気になる児童への個別指導が十分おこなえていない。今後は、ボランティアの協力を考えていく必要がある。
			長期休業中を利用し、補充学習を行う。	長期休業中に3日以上実施	A	夏に2日、冬に1日「学習会」を実施したところ、約60%の児童が参加した。		
	家庭学習	家庭学習の習慣化を図る。(10～15分×学年)	保護者アンケートより「習慣がついている」80%	B	定着率が72%であった。概ね達成できた。	家庭学習の強化週間を2回設定し、家庭への啓発をした。保護者の家庭学習に対する意識が高まった。		家庭学習に対する意識がまだまだ低い家庭もあり、さらに継続して取り組む必要がある。
	キャリア教育(すずか夢工房・職業体験学習)	「すずか夢工房」の活用や外部講師を招いた体験活動を実施する。	年1回以上実施	A	全校集会で「アンサンブルGG」の深小コンサートをしたら、地域の方の参加が多数あった。ゼロックスによる環境教育や農光会の協力による体験活動など様々な活動ができた。	専門的にその分野で活躍されている方々の特別授業を受け、子どもたちにとって貴重な体験となった。今後の生き方を考える場をたくさん作られた。		体験活動については、多く実施した学年もあったが、取組に多少の差ができてきた。キャリア教育担当者を中心にして、年間活動計画を再検討する必要がある。
	コミュニケーション能力の育成	全ての教育活動の場を通して、基本的な話し方・聞き方の指導を徹底する。	児童アンケート「正しい話し方・聞き方ができましたか」4段階評価3以上が90%	A	アンケート結果では、正しい話し方が86%、正しい聞き方が90%であった。達成できた。	人の話をしっかりと聞く姿勢ができてきた。どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で授業ができるようになってきている。深小祭や集会では、児童会を中心となって、学年で取り組んだことを堂々とみんなに発表できた。		コミュニケーション能力の育成は、本校の研修の重要な部分であり、さらにUPするように、継続して取り組む必要がある。
深小祭において表現活動を全校で行い、表現力の向上を目指す。			児童アンケート「深小祭でがんばって表現できましたか」4段階評価3以上が90%	B	アンケートは実施していないが、児童たちは限られた時間の中で、一生懸命取り組んでいた。		社会生活を営む上で、人の話を聞き、自分の思いを述べることはとても大切なことである。授業が落ち着いた雰囲気の中でおこえるようになったことは、何よりも素晴らしいことである。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	保健だよりや健康安全に関する情報を発信し、家庭との連携を図り「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を図る。	児童アンケート「睡眠8時間以上、朝食を毎日食べている」4段階評価3以上が90%	A	朝食を毎日食べている児童は98%で、睡眠時間8時間以上は81%であった。	「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけてきた成果として、朝食の高摂取率につながった。	相手の目を見て、気持ちのよい挨拶をかわすことができたなら、素晴らしい一日のスタートとなる。家庭における躰もあろうが、学校で取り組んでもらっている縦割り班活動を使ってもらってはどうか。縦割り班遊びを始めたり、終わったりするときにも挨拶に取り組んでみたらどうだろうか。上級生が行動に移せば、下の学年もまねをしていくであろう。	鈴峰中学校区で取り組んでいることでもあり、「ノーテレビ、ノーゲーム」等についても今後取り組んでいきたい。
	あいさつ	「あいさつ・返事・ありがとう」の運動を徹底し、挨拶あふれる学校にする。	児童アンケート「元気なあいさつができた」4段階評価3以上が95%	B	元気な挨拶ができた児童は88%であった。	挨拶の声小さかったり、こちらから声をかけても挨拶の返ってこない児童もいるが、児童会を中心に朝の挨拶運動が継続できている。	たてわり班での活動にも「あいさつ運動」を取り入れたりするなど、生活全般にわたって見直しをする必要がある。	
	ホイッスル携行	毎日の下校指導で声掛けをする。	携行調査の結果100%	A	一斉下校では毎回声かけをしており、ほぼ100%に近い。	ホイッスルが不携帯の児童は、179名中毎回1～4名ぐらいいであり、その児童は固定化している。	防犯教室の開催や、児童の危機管理意識を高めるための指導を引き続きおこなっていく。	
	いじめ	いじめアンケート結果をもとにいじめをなくす。	いじめ0	B	いじめの継続を訴える児童が2回目のアンケートでも11名あった。担任が聞き取って細やかな指導をしている。	第1回の調査では16名であったのが、2回目は担任の働きかけで減っている。	校内研修とも関わって、仲間づくりを大切にしたい。学級経営をさらに進める。	
人権教育	学級づくり	「あったか言葉」「ちくちく言葉」を掲示し、他人への思いやりを大切に学級づくりをする。	児童アンケート「あったか言葉・ちくちく言葉を意識して使うことができた」4段階評価3以上が90%	B	あったか言葉を言うように心がけた児童が88%、ちくちく言葉を言わないようにした児童が84%であった。	他人への思いやりを大切に学級づくりを進めてきた結果、多くの児童が「困っている子や体の調子の悪い子を見かけたとき、あたたかい言葉をかける」ことや、「人の心をきずつける言葉を言わないようにする」ことを意識しながら学校生活が送れるようになってきている。	相手を理解し、認めることで、子ども同士のつながりもできてくるはずだから、コミュニケーション能力を高めることも大切である。人権教育を大事にすることで、いじめも少なくなっていくのではないだろうか。今後も継続してほしい。	
	人権授業	全担任が人権をテーマにした授業を授業参観で行い、保護者へも啓発する。	年間2回以上実施	A	年間3回のフリー参観日で、1時間は人権をテーマとした授業があった。			
	児童理解	「気になる子」を全職員が共通理解し、取り組みをするために年3回レポートや情報交換をもとに「子どもの生活を語る会」を実施する。	児童アンケート「学校は楽しい」4段階評価3以上が95%	B	学校は楽しいと答えた児童は、91%であった。	毎月の職員会議で、各学級から児童の実態や学級の課題を交流し合っている。そのことが児童理解につながり、全教職員が同じ歩調で指導できている。また「子どもの生活を語る会」も既に2回している。		
	たて割り班活動	異学年交流を通して他者とのかかわる力を高め、思いやりの心を育む。	児童アンケートで「たて割り班活動は楽しい」が80%	A	毎月「たて割り班遊び」の日が何回か設定できた。芋掘りや縄跳び大会などの行事でも、縦割り班が活用できた。	1年生も一緒に楽しめる遊びを考えたり、工夫したりすることで、相手を思いやるようとする態度が育ってきている。		
開かれた学校	情報発信	学校だよりは年間30回以上発行し地域へも回覧する。また学級だより等は必要に応じて発行する。	保護者アンケート「学校は、学校だより等を通して教育方針や活動内容を分かりやすく伝えてありますか」4段階評価3以上が80%	A	学校便りは既に30号を突破しており、それを地域にも回覧した。保護者アンケートでは97%であった。	学校の情報を保護者だけでなく、広く地域の方に公表することで、理解を得られている。保護者アンケートにおいて「学校は、学校だより等を通して教育方針や活動内容を分かりやすく伝えてありますか。」の質問に対して、97.2%が肯定的であった。	それぞれの達成状況から判断して、学校が一生懸命取り組んでいることがわかる。今後も継続してほしい。学校と保護者・地域が双方向で協力・連携する考え方はよいと思う。	開かれた学校づくりについては、設定した指標をすべてクリアすることができ、アンケート結果からも大きな成果があったと言える。今後とも地域・保護者に情報発信に心がけ、学校と保護者・地域の方との双方向での協力・連携を大切にしたい。取組を考えていく。
		ホームページを充実させる。	月1回以上更新する。	A	月2回以上更新できた。			
	学校評価	学校評価アンケートを実施し、結果を学校だよりで公表する。	年間2回実施し公表する。	A	夏と冬に2回実施し、学校便りで公表した。			
	保護者・地域の人々の参加	年間に授業参観を2回、フリー参観を3回、学級懇談会を2回計画的に実施する。	保護者アンケート「学校は、保護者が授業や学校行事に参加する機会をよく設けていますか」4段階評価3以上90%	A	授業参観を1回、フリー参観を3回、学級懇談会を2回実施。アンケート結果でも91%あった。	どの行事も保護者や地域の方々にたくさん参加してもらい、開かれた学校づくりを進めることができた。地域との連携も深まり、子どもたちが地域を知り、誇りに思う気持ちが生まれてきた。		
	地域ボランティア	地域ボランティアを活用する。	年間10回以上	A	学校園などの花壇の整備を数回、深小祭などでの昔の遊び、農光会による稲作づくりなどたくさん協力していただいた。			